

「論文作成」のための特別講座

練習問題 1 1 次の文を読み、図を参考にして「私が将来したいこと」について、あなたの考えを500字以内で書きなさい。

なお、文中には、次のキーワードを必ず使用しなさい。

キーワード [ゴミ 環境リスク 生態系 化学物質]

人間が作ったり、発見した化学物質は、私たちの暮らしのさまざまな場面で利用されています。化学物質の中には自然の中で分解されにくいものや蓄積されやすいもの、蓄積してからゆっくり害を与えるものがあります。環境の中に蓄積すると、生き物の体内に入って悪い影響を与えるおそれがあります。

たとえば、生き物が外からとりこんだ化学物質は、生き物の食う食われるの関係(食物連鎖)が進むにつれて、濃度が濃くなっていきます。プランクトンには影響のなかった濃度の化学物質が、ホッキョクグマに到達するころには、体に大きな影響を与えてしまうことがあります。

そして今、環境中の化学物質が、子どもたちの体に影響しているのではないかと心配されています。



2011年1月から、**エコチル調査**(「子どもの健康と環境に関する全国調査」Japan Eco & Child Study)が始まります。この調査は、環境が子どもたちの発育に与える原因を明らかにすることにより、子どもたちが健康に成長していくことができる環境、また、安心して子育てができる環境を整えることを目的としています。全国10万組の親子に参加してもらい、体内の化学物質などの調査を行います。調査期間は、赤ちゃんがお母さんのおなかの中にいるときから13才になるまでです。



「論文作成」のための特別講座練習問題 11 解説

典型的な「資料読み取り型」の「小論文」である。

「資料」が示している「内容」を読み取り、その主旨に対して自分の考えを「小論文」として書くことが大切である。

「題意」は、「環境問題」の大きなテーマの化学物質である。いいかえると、①化学物質が引き起こしている地球環境の破壊現象に対して、進められている対策・研究についての知識の豊かさを試している。また、②それをふまえて、自分の生き方との関係を考えることができるのか、③その表現力があるのかを試す問題である。

必要な、論文内容は、次のような項目である。筋道が通っていれば、展開順は違っていてもよい(必ず、段落分けすること)。

第1段 「引用」(論じる対象の限定)

第2段 「問題提起」＋「判断(結論)」

第3段 「根拠」

第1段の「引用」の場面で、論じる対象を明確に示えること。すなわち、論じる対象は、「便利な生活」が生み出す「化学物質による環境破壊」地球規模の危機をどのように乗り越えるのかである。これを指摘することが、第1段での重要ポイントである。キーワード「化学物質」を使用する文を書くこと。

第2段で、「問題提起」として、①化学物質の「環境リスク」をどれだけ低くすることができるのか、と指摘すること。また、②それは、工業製品の製造過程や流通過程、消費者の日常生活の改善により、低くできる可能性があることを指摘すること。

「判断(結論)」として、③それらの内のどれかを指摘して、結論としての「自分の生活・行動」を宣言しておくことが重要である(ボランティア活動よりも、将来つきたい職業や、学習したい学問との関係で書く方が深みがある)。

第3段では、第2段で述べた結論としての「自分の生活・行動」の「根拠」を説明する際に、社会科学的な知識や、理科学的な知識を使用して説明できれば高い評価になる。注意すべきは、自分の実践方法を具体的に提案するための「根拠」になる事象をあげる必要がある。

「答案」を書くテクニック(第3段)

はじめに、そもそも、化学物質による「環境リスク」を抑制することは可能なのか。自然界のものをそのまま利用するのではなく、今日では日常生活に利用しているもののほとんどは、化学的に処理された「工業製品」である。便利さを求めれば求めるほど化学物質は増加する一方にある。「環境リスク」を抑制することは容易なことはでない。

そのことを必ず書いておかなければならない。でなければ、この問題が重大問題であることを知っていることを表現できないからである。

問題発生「原因」として、①日常生活を支える多くの工業製品・商品は、化学物質によってできている。②それらの工業製品・商品を大量に消費・使用すればするほど、「ゴミ」を大量に発生させる。③「ゴミ処理」をする際に、化学物質は、燃やしても「大気汚染」の原因となり、地中に埋めると「土壌汚染」・「水質汚濁」の原因となる大きな「環境リスク」である。④大気や土壌あるいは地下水や河川の水に含まれた化学物質は、海洋に流れ込み海洋資源まで汚染することになる。⑤それらのことにより、地上での問題だけでなく、海洋を含めた自然界の「食物連鎖」を破壊し、やがては「生態系」の破壊を進行させている。以上のうちの複数の事実を指摘すること。

なお、自動車の排気ガスや、工場がはき出す煤煙や工場廃水なども化学物質を多く含むものである。これらは、生産することが目的ではないので、「公害」とよばれている。

「自分の生活・行動」の「根拠」として、①「原因」を防ぐ、研究が必要であること。②「原因」を防ぐ、日常生活・社会生活の実践が必要であること。のように「原因」を指摘した上で、①か②を、自分のつきたい職業と結びつけることができれば「理想的な答案」になる。職業が思いつかない場合は、研究している「学問領域」をあげて「論文」を書くといえよう。

この「小論文」を書く際に、考慮しなければならないキーワード・「知識」

農地の汚染、化学肥料、農薬、

食生活の見直し、海産資源の保護・育成、

生物多様性

ダイオキシンポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物

水俣病は、肥料を生産する工場の廃水(化学物質を多量に含む廃水)が原因